

■シリーズ■ 中学校武道

授業の充実に向けて

189

「今」の時代の武道授業を追い求めて (武道の本質を捉えて生徒の成長を支える剣道授業)

18

広島県廿日市市立四季が丘中学校 教諭 勝島恵利

このたび、私が勤務してきた広島県内の中学校における授業実践や在外教育施設（日本人学校）での指導経験を振り返り、これからの剣道授業の在り方を考察する機会をいただきました。

「今の時代にあつた武道授業とは」という視点から、広島県での取組にも触れ、未来への展望を探ります。多様な学び方を選んでいける時代に、武道の本質を伝え、生徒の成長を支える授業づくりを進めていきたいと考えています。

1 武道必修化と授業研究 (広島県の取組)

平成24年度の中学校武道必修化によって、剣道の授業研究や指導法の研修が盛んになり、全国の研究大会等でも武道が取り上げられることも多くなりました。武道の指導経験の浅い教員もいる中で、安全への配慮や教材の購入について学校や市町教育委員会の協力や支援も必要となりました。

広島県では、これに先駆けて平成21年度から柔道および剣道を専

門とする高等学校の教員が講師となり、任意の研修講座（注1）を毎年1回開催しています。平成26年度からは、大学で武道指導を専門とする講師を招き、学習指導要領に基づいた指導計画や評価の在り方についての研修内容となっています。研修講座は、現在まで柔道と剣道が隔年で実施されており、平成29年の学習指導要領改訂における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する一助となっています。剣道では、香川大学副学長の山神真一教授に長年ご指導いただき、竹刀を握ったことのない教員が理解

しやすく、授業実践につなげる
ことができています。

2 施設や教材教具の 準備と工夫

私が勤務した中学校で、剣道具
や竹刀を保有している学校はあり
ませんでした。そのため、環境整
備や教材教具に関して、他校との
情報共有や校内での予算化等も行
っていました。

学習形態や授業時数、さらに学
校や実施学年の生徒の実態によっ
て、次のような工夫を行いました。

① 武道具店の剣道具・竹刀のリー
ス契約（注2）を利用し、剣道
具の着脱、基本技・応じ技の判
定試合や条件付きの試合を行
う。

② 竹刀のみリース契約を利用し、
演武形式で判定試合や相互評価
を行う。

③ 手ぬぐいやタオル・新聞竹刀を
活用し、攻防を楽しんだり、間
合いのとり方を学んだりする。

④ 木刀による剣道稽古法を指導

し、発表会形式で評価を行う。
限られた授業時数の中で目標が
達成できるよう、計画を臨機応変
に修正することもありましたが、
礼儀作法や伝統的な所作について
真剣に習得しようとする生徒の姿
が見られました。

武道以外の領域の学習において
も、条件の整わない状況がありま
すが、教材や場の設定を工夫する
ことで学習効果を向上させたり、
生徒たちに達成感を味わわせたり
することができると思っています。

3 現在の武道授業の 課題

日本武道館が調査している「中
学校武道必修化に関するアンケー
ト調査」の回答内容（注3）には
次のような結果が見られます。

① 広島県内の中学校で97校が剣道
の授業を実施しており、授業協
力者を活用している学校もある。

② 一つの学年における年間武道授

業時間数は、約7時間である。
③ 複数の武道を実施している学校
も11校ある。

調査では実施学年の回答項目が
ありませんが、3年間を通して武
道を実施している学校は、少ない
と思われます。

したがって、3年生での知識お
よび技能の単元目標にある「技を
高め勝敗を競う楽しさや喜びを味
わう」ことや「見取り稽古の仕方」
「しなけたり応じたりするなどの
攻防」までを達成することは容易
ではないと感じています。

さまざまな課題がある中で、筆
者のこれまでの授業実践の中から
一部を紹介したいと思います。

4 授業実践

一つ目は、平成26年から勤務校
で行った男女別修での剣道具を着
用した授業実践です。H中学校と
A中学校では、男子クラスも女子
クラスも担当しました。どちらの
学校でもオリジナル手ぬぐいをつ

くり、自分のものを大切にするこ
とと借りた道具を大切に扱うこと
を意識させました。また、折り目
正しく畳むことや、剣道具のま
め方や紐の結び方・締め方にもこ
だわって指導しました。

このことは、中学2年次の職場
体験学習や3年次での面接指導に
も生かされたように思います。さ
らに、場面緘黙だった女子が面を
着けて運動するときには大きな発
声ができたり、自分からコミュニ
ケーションをとることが苦手な生
徒がペアで道具を着け合うこと
で、スムーズに会話できたり、と
いった成長や良い変化も見られま
した。

二つ目は、令和3年度からの2
年間、メキシコの在外教育施設に
おける中学部での授業実践です
（図1）。

コロナ禍での制限が多かったた
め、1年目は実施できませんでした
が、2年目の令和5年2月に、
柔道4時間、剣道4時間を実施で
きました。竹刀を日本から取り寄
せ、基本動作、素振り、指導者が



図1 メキシコの在外教育施設における中学部での授業実践

剣道具を着けて生徒に基本技を打たせる、などの学習をすることができました。入手が難しい貴重な新聞紙で、新聞紙切りの実技にも挑戦し、大変盛り上がりました。

武道授業を日本で経験した生徒が2名、日本では武道授業の経験がない生徒5名、現地で生まれ育った生徒が3名と、武道に対する知識はさまざまでしたが、全員が非常に意欲的に取り組んでくれました。特に、「相手を尊重する礼儀の示し方」「伝統的な行動の仕方」の一つ一つに興味があることやその歴史について関心を示していました。

帰国して日本の中学校や上級学校で生活する生徒はもちろんですが、海外での生活が続く生徒にも剣道で学んだことを生かしてほしいと願っています。

三つ目は、多様な生徒に配慮しながら、より深い学びを促す実践を目指して取り組んだ授業実践です。

現在勤務している中学校では、初めて特別支援教育コーディネー

ターを担当し、不登校等生徒支援にも携わっています。また、学校全体で「ディスカッション」や「ICT（情報通信技術）の活用」を取り入れ、協働的な授業づくりを進めています。

まず、事前アンケート（図2）をとり、個別に配慮することや武道に対するイメージについて把握したことを指導に生かすことができるようにしました。

令和5年度に広島県で開催された全国剣道指導者研修会に参加し、他県の取組や若手教員の新鮮な意見に触れることができました。そこで教材の提示方法や評価のための手立てについて、これまでの実践をアップデートすることができました。

また、大竹市・廿日市市の中学校教育研究会では、研究授業を提案する機会をいただき、支援学級生徒を含む男女共修での授業について、たくさんの先生方と協議することができました。

ここでは、竹刀のみで学習し、各学級の生活班でグループ学習を進めました。

保健体育科 ダンス・武道に関するアンケート

四季が丘中学校 3年（ ）組（ ）番（ ）

- 1 ダンスをすることは、好きですか？ あてはまるもの一つに○をつけましょう。
とても好き 好き わからない 嫌い とても嫌い
- 2 ダンスの授業で、印象に残っていることを書きましょう。
- 3 ダンスの授業で、どんな力が身に付くと思いますか？
- 4 武道をすることは、好きですか？ あてはまるもの一つに○をつけましょう。
とても好き 好き わからない 嫌い とても嫌い
- 5 武道の授業で、印象に残っていることを書きましょう。
- 6 武道の授業で、どんな力が身に付くと思いますか？
- 7 これまでの体育の授業について、答えましょう。
 - ① 主体的に学習に参加できている。 はい いいえ
 - ② 仲間と協力して学習できている。 はい いいえ
 - ③ 上達するための努力や工夫をしている。 はい いいえ
- 8 ダンス・武道の授業をするときに、先生に伝えておきたいことがあれば書いておきましょう。

図2 事前アンケート

学習記録ノート(図3)を活用して、生徒と文章でのやりとりを丁寧に行いました。表紙には、生徒が美術の授業で描いた水墨画作品を採用し、毎回の「めあて」だけでなく、技能のチェックポイントも載せることで、次時への意欲へつなげました。

シューズとソックスを脱いで揃えて置くことや竹刀の安全点検にも各自で意識できるようにしました。

ペア活動で、基本技を打ったり受けたりする演武形式を単元テストとして評価しました。動画で撮影した自分の姿を確認さ

せたり、ペアを変えてアドバイスさせ合ったりして、グループ内でディスカッションさせました。

授業の様子を学年通信に掲載することで、他のクラスの様子も知ることができ、集団づくりにもつながりました(図4)。

■安全に楽しく行おう

○竹刀を点検しよう

○竹刀を振り回さない

■竹刀の安全管理について

安全管理が事故を未然に防ぐ！

剣道

四季が丘中学校
3年()組()番
名前()

■竹刀の安全管理について

竹刀の安全管理について

竹刀の安全管理について

安全管理が事故を未然に防ぐ！

■単元の目標

(1) 基本動作や基本技を身につけて、正しく打ったり打たせたりできる。

(2) 相手や仲間と協力する中で、課題を発見し考えたことを伝え合うことができる。

(3) 継続的な礼法を大切に、安全に学習することができる。

■個人技能のポイントを確かめ、できたことを評価しよう。

	技能のチェックポイント (よくできた:◎ できた:○ もう少し:△)	ブロー	フッター
中段の構え	両足を伸ばして両肩の力を抜いた姿勢で、剣先の延長を相手の胸の間に当てて構えることができる。		
体さばき (足さばき)	腰の上下動を少なくして、歩み足や送り足でスムーズに移動することができる。		
面	竹刀の物打ちの部分で、相手に対してまっすぐ面を打つことができる。		
胴	竹刀を斜め 45 度の角度で振り下ろして、胴を打つことができる。		
小手	手首のスナップを効かせて竹刀を振って、小手を打つことができる。		
小手一面	最初の小手打ちの後、すばやく振りかぶって面を打つことができる。		
面一胴	最初の面打ちの後、すばやく手首を返して胴を打つことができる。		
体さばき	相手の動きに合わせて、歩み足や送り足でスムーズに移動することができる。		
構え	相手の打突する技に対して、正しい高さや位置で受けることができる。		

■今日の学習を振り返り、次回に向けてまとめよう。

月/日	今日のテーマ	できたこと、気付いたこと、次回に向けて	先生から
第1時	／		
第2時	／		
第3時	／		
第4時	／		
第5時	／		
第6時	／		
第7時	／		
第8時	／		
単元のまとめ			

できるようになったこと、努力したことなどを書きましょう

図3 学習記録ノート

ボール運動で公式球ではなく簡易的な教材を用いたり、コートの大きさを変えたりして学習の導入を行うことがあるように、武道においても、その本質を捉えながら、より興味を持って学べるような工夫が必要だと考えています。

また、「礼法」や「間合いのとり方」などで、自分と相手とのやりとりを習得することや、手ぬぐいやタオル・紐などで「力のかけひき」を経験させることが、今の子どもたちに必要なコミュニケーション能力や基礎体力の獲得につながると思っています。さらに、ジャンケンゲームで「惻隠の情」を取り入れたり、「残心」を学校生活の場面でも例に挙げたりすること、思いやりの心を耕せるのではないのでしょうか。

変化する時代の中で、武道授業は単なる技術指導にとどまらず、日本文化の理解や国際的な視野を

5

これからの武道授業に求められるもの



図4 授業の様子

育む重要な機会となっています。指導者としての努力と創意工夫によって、武道授業をさらに進化させ、生徒たちの成長を支え続けていきたいと思っています。

(注1) 広島県の取組について

は、広島県教育委員会豊かな心と身体育成課学校体育係より情報収集。

(注2) 広島市内の武道具店の剣道具・竹刀のリース契約

については、広島市中央区にある松尾武道具製作所が市町教育委員会や学校設置者と契約して行っており、使用期間のみ校内保管となるため、メンテナンスや衛生面についての不安がほぼ解消される利点がある。

(注3) 広島県教育委員会豊かな心と身体育成課学校体育係より情報収集。

(注4) 添付画像に顔が写っている生徒については、掲載されることについて承諾済みである。